公開講座実施に携わって
── 生涯学習考 ──

文教大学学園職員
長谷川　栄

生涯学習って何なのかな・・・。時折そんなことを考えています。生涯を通じての学習？　社会に出てからの学習のこと？　生涯勉強をし続けること？　はっきりとした目標に向かっての学習もあれば、固定観念に捕らわれないで広い分野に亘って興味を示してみたり、自然体で自分の回りの様々な事象に対して向学心を抱く場合もある、そんな漠然としたイメージが浮かんで来ますが、生涯学習とは、柔軟な享受の心を持って前向きに生きて行くこと、そのこと自体が生涯学習の姿勢なのではないかと思えるようになりました。

長寿高齢化が益々進んで行くであろう21世紀、長い人生を心穏やかに、精神的に満たされた情態で過ごすには、常に自分を取り巻く環境を把握し、社会の動向に目を向けながら、その中の一員である自分の存在を実感し続けることが肝要なのではないでしょうか。組織、社会の一員としての自分、地域の一員としての自分の存在を認識し、その中で自信を持って活動することができるよう、前向きな姿勢を保ちながら自分自身に付加価値と行動力を付けて行きたいと考えています。

以前の私は、生涯学習というもについて考える時、“活かせる学習、活かすための学習”を思い描いていました。自分の人生の中に有効に活かして行けるようなことを学習し、仕事をはじめ日常の生活の中でその知識や技能を上手に活かして行きたい、そう考えていました。明確な目標を定めて、早くそれに近づくための学習機会を求め、融通の利かない直線的な視線で“ねばならぬ式”のどちらかと言うと堅苦しい学習形態をあたりまえのことのように思っていました。そんな私の考え方の幅を少なからず広げてくれたのが、公開講座受講の近隣地域の方々です。

文教大学公開講座が第14回目を迎えた平成11年、実施主管が湘南総合研究所に委ねられ、研究所の中に情報学部、国際学部、女子短期大学部の３学部の先生方から成る公開講座実施委員会が設置されました。私は、湘南総合研究所事務担当の職員として実施委員会に参加することとなり、湘南キャンパス３学部が共同で運営するという新しい体制の中で試行錯誤だらけの実施準備に携わることになりました。

湘南総合研究所は研究活動のほかに、地域社会との提携・交流、研究成果の地域還元を目的としていますので、近隣地域の方々に生涯学習の機会を直接提供できる公開講座はそれらすべてを実現できるものと思われ、実施委員会の中で受講希望者のニーズに合った講座運営の検討が進むにつれて、私の緊張感も高まりました。また、私が直接近隣地域の方たちと接するということも初めてのことであり、地域の方たちがどんな感じで大学の職員を捕らえているのか、対応や事務サイドの雰囲気などに対する反響がとても心配でした。

公開講座の開講そのものに関しては過去13回積み重ねられて来たノウハウ等の実績があり、毎

年欠かさず受講申し込みをされる方も多いようで、地域の方々の方が公開講座に対する馴染が深いような印象を受けました。ですから余計私は、その方々が抱いている公開講座のイメージや文教大学のイメージを大切にしながら、さらに湘南総合研究所の存在と事業を知っていただくことを念頭に置いて対応するようにしました。そしてそこには、生涯学習のお手伝いができるのだというささやかな自負もありました。

開講のお知らせが茅ヶ崎市の広報誌に掲載され、ポスターやチラシが目に留まる頃になると、受講を希望される方たちからの電話による問い合わせが多くなりました。しかし私の期待に反してと言っても良いのか、公開講座を受講することに関して、取り立てて“生涯学習をするのだ”という気負いはまったくといって良いほど感じられず、文教大学の先生方の講義を聞いてみたいとか、是非大学構内に入り教室で学ぶことによって学生気分を味わいたいという言葉を何度も耳にしました。また、公開講座が実施されるかどうかという予定についての問い合わせもかなりありましたが、申し込み方法や締切日についての質問だけが多く、細かい開講日程についてのお尋ねは少なくて、テーマについても聞いていただけないことが何回かありました。

第14回目の講座は「20世紀の反省・21世紀の展望」というテーマで、実施委員長の言葉を引用させていただくと、100年の人類の歩みを振り返り、そこで不足したもの、誤ったものは何かを反省し、その教訓を明るい未来を創造するために生かして行く・・・今の私たちに求められているこの課題に向けて一緒に考えてみようという趣旨で企画が進められていました。多方面からのアプローチでもあり大きな課題でしたので、地域のどういう方々、どんな年齢層の方たちに興味を抱いていただけるか少し心配していました。

もし私が受講をしてみたいと思う場合は、まずテーマを見て、内容を知ってじっくり検討してから初めて申し込もうかどうか考えるのにと思い、内容も知らずに受講を希望されることが不可思議でした。内容に関係なく申し込んでいただいても、興味分野でない場合には受講が決まってからキャンセルなどということはないのかしらと心配でしかたがありませんでした。ある時、テーマを聞かれなかった方に内容を確認しなくても良いのか伺ってみたところ、どんな内容でもかまわないので時間が許す限り受講したいというお答えが帰って来ました。へーェ！という感じで少々批判的な感情を抱いてしまった私ですが、時間が経つうちに、なるほどそういう勉強の仕方もあるのだろうなと少しだけ認識が新たになりました。

毎週土曜日の２ヶ月に及ぶ講座が始まってからも、受付時などに受講者と直接お話をする機会がたくさんありましたが、時間よりかなり早く来てしまったとおっしゃる自称おじいちゃんから伺ったこんなお話もかなり印象的でした。早く来過ぎたため受付の準備もまだできていないし、近くにいて準備の妨げになってはいけないと構内を散歩することにした。足の向くまま歩いているうちに教室の方向がわからなくなってしまい、時間も迫ってきたので近くにいた学生に聞こうと思ったが、赤茶色い髪の変わった服装の男の子の集団しか見当たらないので躊躇していたところ、その中の一人がどうかしましたかと声をかけてきた。事情を話すと彼は、口で言ってもわかりにくい所だからと教室のそばまで一緒に来てくれた。私の孫はまだ高校生だが、近頃の若い者はなかなか私らと話をしようとしない。近寄り難いと思っていた風体の学生さんと初めて並んで話をしながら歩いたけれど、決して雄弁ではないがとつとつと話す彼の言葉の中に素直な面をかいま見たような気がする。見かけで判断してはいけない、見かけで判断したら大変な損をするところでした。今度は自分の方からたくさんの学生さんや孫にも話しかけて行こうと思います。今日は大変大きな学習をさせていただきました。と興奮気味に話してくださったその眼差しに、こ

ういう学習態度もあるのだという姿勢を強く感じさせられました。

一方、講座の修了日には、共同主催者である茅ヶ崎市教育委員会の依頼により、講座に対するアンケートを取らせていただきましたが、今後希望するテーマや講座の内容などについての回答を見ると、ジャンルを問わず機会があれば何でも学んでみたい、今までの経験や職業に関係ない色々なことを勉強してみたい、未知の分野に触れてみたいという希望を述べられた方が大部分であり、この事実にまた驚かされました。

目標を定めてから一歩を踏み出そうとしている私の学習姿勢は少々慎重すぎ、柔軟性に欠けているのかもしれない、目標を持って学ぶことは勿論大切なことではあるけれども、目線を広げて世の中を眺めてみるとまた意外な対象に出合うかもしれない、色々な場面でもっと享受の態勢が必要なのだ、そんなひとつの気づきがありました。

公開講座受講の方々との出会いだけが自分の考え方や物事に相対する姿勢を見直させてくれたすべてではありませんが、ひとつのきっかけとなったことはまぎれもない事実です。新たな経験の中で自分の考え方が変化し、考え方が変われば感じ方も変わり、感じ方が変われば行動もまた変化して行くということを身をもって体験しました。

現在は勤務の部署が変わり湘南総合研究所の事務からも離れましたが、私にとって、公開講座の実施に携わらせていただいたこと自体が大きな学習機会であったと実感し、そのチャンスに感謝しています。

今も目標を持って学んでいるものがあり、私の大型生涯学習としてさらに極めて行きたいと思っていますが、これからは興味分野の固定観念に捕らわれずに享受の姿勢を大切に育んで行こうと思います。そしてそこで培えるであろう多くのものを職務の中に、日常生活の中に、自信をもって活かして行けるよう努力したいと思います。